

木の家づくり

工務店ここにあり

本物の家づくりは

本物の企業と人から

地域に根づいた家づくりを貫く

横浜市 (株)大安ホーム

横浜の(株)大安ホームを訪問した。神奈川県のカスタム県会議の有力企業で、木と心を大切にしながら家づくりに真剣に取り組み始めているという。

今年のテーマは「感性を育てる」

「木のこころ」をテーマに、社員と関係業者に講演をすることになった。訪問で、光田敏昭社長との語らいの時を持つことができた。

ものすごく感性が強く、感性豊かで、社員との一体化、取引先との一体化、地域との一体化を大切にしている。その光田さんの心意気が知れるのは「デイリーメッセージ」。毎日、光田さん自身が書き、全社員と関係先に発信され、一ヶ月分が冊子となって配られている。

そのメッセージの今年の第1号には「良い会社にするには、社風を育てるにはと、ここ数年一貫したテーマと取り組んでおります。良い社風から良い家づくり、良い住宅産業への道のりには良い感性を欠かすことはできません。良い感性とは誰でもが一種の感動的な気持ちで素直に受け入れられる表現能力と言ってよいのかもわかりません。」

「鋭い感性、優れた感性は、心温かき人にすばやく宿ります。瞳がキラキラとして自分が育ち、周りが育ち、現場が育っていき、お客様の歓喜となります。」

「良き住宅、住み良き住宅、幸福を生む住宅は良い感性から生まれてきます。」

と今年のテーマに「感性を育てる」を掲げている。

家は家族の要のところ

大安ホームが(株)大安の建築・工事部門などを主に分離独立したのは昭和五十四年(株)横浜大安建設)だが、光田さんが先代社長の兄の後を継いで社長になったのが十一年前。

以前のソニー勤務の頃には、住まいは「帰って、ご飯を食べ、寝るところで、関心はなかった」「大安に入り、飲食店などを家族ぐるみで経営していたこともあり、家庭がひっくり返ったようになった。家族の落ち着かない生活になって、ようやく家というものをしっかり考えてこなかったことに気が付き、真剣に考えるようになった」という。

特に、家づくりに携わる人間として家の役割を



どう考えるべきかの原点に立ち返って考え、「家は家族の要のところ」「家族みんなが集まって、話し合い、何かを生み出すところ」との答えに到達したという。

光田さんは、自分で言うように決して家づくりのプロではない。「知らないことが多いし、専門家には勝てない。しかし、そんな素人の戯言の中に真実があるかもしれない」と楽しそうに笑う。

その道の専門家は、その分野に詳しい反面、その経験と知識にとらわれて新しい発想が出来ないことがある。傍目八目ではないが、門外漢の素直な発想や疑問が行き詰まりを打開することがよくある。そこに光田さんの経営者としての視点、奥行きのある人間力、そして信条の「逢えてよかったの人生を！」からの学びがプラスされるのだから、専門家に見えない真実を見い出せるようである。

■掃除道を通して本物に近づく

家というのは、家族の安らぎと団欒を通して「幸せを生むところ」。入れ物だけ、部屋数だけで、「家をつくって子を失う」というものではなく、ジワジワと幸せが浸み出てくるようなものでありたいとの思いが生きる大安ホームの家づくりである。光田さんが家づくりに携わるようになったのは十数年前。塩ビや新建材を見て「これはニセモノだ。使わない方が良い」と感じ、それを実践しようとしている。

父が骨董屋をやっていて、木を使ったものが多かったせいもあり、古いものが好き、木が好きと、というのが身体に浸みついているから、木の家へのこだわりがある。

だから「今の家は面白くない」という。内装もそうだし、外装にしてもサイディングで包んだり

して、何風かわからない家ばかりが溢れる有様を見て、数年前から、その裏返しとして「本物の家をつくらう」と考え、研究と模索が始まった。

本物の家とはどういうものかを考えると、いろいろ出てくるが、それはニセモノでない家だと考えた。するとそこで問われるのが経営者としての自分だった。

光田さんの新しい挑戦がここから始まった。「本物の家をつくるには、自分が本物の人間になること」で、ここから始めなければ、本物の家づくりは始まらないとの答えに行きついた。

いろいろな学習会や熟への参加が始まったが、「会社に何を取り入れたらいいのだろうか」と考えながら辿りついたひとつが掃除道だったという。

イエローハットの鍵山秀三郎さんが実践し、全国に掃除活動を展開している掃除道。道や川もさることながら、学校や公共施設の便所などの掃除をさせてもらう実践道場である。

掃除の中に、一生懸命やればこんなになるんだというものが見えてくる。積み重ねて行けば大きな変化が生まれてくるだろうと、その運動の中に入り、会社でも実践し、地域でも運動づくりをして一生懸命やっていたら、いつの間にか神奈川県を中心になっていた。「逃げるに逃げられず、天の声と思うようになった」とニコニコしている。

掃除道の極意は一点集中で、その方が結局早いということを学んだ。理屈抜きの成果を上げて行く行動であり、続けることが人間形成につながっていく。

しかも、そこに集まってくるメンバーが良い。人が素晴らしいし、経営がうまくいっていて、他の集まりとの違いがわかるから、声がかかれば出来るだけ参加するという。

掃除のすすめで、人間が見え、それが本物に近



づく道であり、本物の家に近づくことにつながることを感じている光田さんである。

そこから光田さんが改めて家づくりを考えると、住む人の心が滲み出るような家でなければいけない。同時に近隣を含めた周囲、地域の環境に調和した本物の家と住環境であるべきで、それは木の家であるとの確信が生まれた。

カスタムグループに参加し、その工法も取り入れ、ホームリースタディーグループにも入り会社をあげての勉強がすすんでいる。その中で「木のこころ」との出会いも生まれた。

光田さんは、木の家づくりを通して、時間を越えた自然の摂理に学ぶこととに確信を持ち、「ようやく当社に春が来ました」「社員の方向性が一致してきました。ここまでくるのに三年はかかっております。ようやく見つけた本物」とメッセージを発している。

大安ホームの木の家づくりが新しいスタートを迎え、「大安ホーム木のこころ」仕様がいま姿を

見せようとしている。

地域づくりの中核企業に

大安ホームの家づくりは、地域密着型で、横浜地区を中心に地場産業としてのスタイルを定着させ、増改築・リフォームでは地元でトップの業績をあげている。

小さなリフォームから大きな増改築まで、住む人の心と結びついた仕事が評価を得、それが後のリピートにもなっている。

その大安ホームが行っているもうひとつが、地元「新吉田をふるさとに」を揚げたふるさとづくりで、その中核企業として年二〜三回「だいあん

Day」と銘打ったイベントである。

自社の敷地をフル活用し、イベント広場や舞台も設け、御輿舞い、餅つき、カラオケ、木工教室、フリーマーケット等盛り沢山の催しに、屋台が何店も並び、千五百名もが参加する地域の名物行事として定着している。

夢まつりと称するこのイベントは、系列会社の夢工房だいあん(株)が主体であるが、このほかに教室をいくつも開いている。料理教室、フラワーアレンジメント教室、子ども造形教室など多彩で、経営教室や子供のしつけ教室、その他の催し等も計画中という。

企業は存在し、利益をあげれば良いというものではなく、近隣に対して、一緒にこの地で生活をするという心を持ち、一緒に地域づくりをし、その中心でありたいという光田社長の想いが、このような地域活動として展開され、実を大きくしているようである。

「会社は生きもの、死ぬことはある」成長、発展、衰退、死は必然の流れだから、何を残すかを考える光田さん。

財産以上に「いかに生きるべきか」を大切に、正しいものの考え方を持ってほしいとの想いをこめて経営にあたり、メッセージを発し続け、地域に在って、本物の家づくりをはじめている大安ホームの姿がある。

(酒井)

株式会社大安ホーム

〒二二三一〇五六

横浜市港北区新吉田町二七四一

TEL 〇四五五五四二一五四一〇

FAX 〇四五五五四二一五六四五



大安ホーム本社



平成11年 夢まつり